

美幌峠旧道

屈斜路湖の面積は 79.3 km² で、日本最大のカルデラ湖です。30 万年以上前に始まった一連の大規模噴火により形成した巨大なくぼみ（20 x 26 km）である屈斜路カルデラの西側半分の大半を占めています。美幌峠は、屈斜路の大きな湖とさらに大きなカルデラを見るのに最適な、見晴らしのいいスポットの 1 つです。

摩周屈斜路トレイル（MKT）と美幌峠からの景観

MKT は、美幌峠と摩周カルデラの火口縁の間を 61 キロ通るルートで、屈斜路湖湖畔の南側と東側に伸びています。屈斜路湖の中央にある島は、かつてのカルデラ溶岩ドームです。屈斜路湖の東側にある山々はアトサヌプリ火山複合体の一部で、19 世紀末に硫黄採掘が盛んだった硫黄山もここにあります。快晴なら、峠から摩周カルデラの山々を含む MKT 全体の景色をはっきりと見ることもできます。

新たなアクセスと新たなライフライン

古来、アイヌの人々は、屈斜路カルデラ周縁の小道を通して、屈斜路湖のそばにある温泉・池の湯を目指しました。1920 年に美幌峠に初めて馬車用のトレイルが開通し、屈斜路湖エリアへと通じる 2 つの重要なルートの 1 つになりました。トレイルは道路へと舗装されましたが、今日では、新しい道

路が峠を通っており、美幌と弟子屈（てしかが）地区を繋いでいます。MKT は、屈斜路湖と美幌峠間の旧道に沿ったルートです。

1920 年 8 月、大規模な洪水が発生し、南側から屈斜路エリアへと通じていた、弟子屈と標茶をつなぐ主なルートが遮断されてしまいました。弟子屈は孤立し、この辺りのコミュニティは他のコミュニティから遮断されました。北から南へと続く美幌峠へと繋がっている道は未完成だったため、人々は、美幌から徒歩で必需品を運ばなければなりませんでした。この災害を受けて、美幌峠へと続く道の完成が優先され、1920 年末には道路が開通し、この辺りの人々にとって新たな重要ライフラインとなりました。